



人類はひとつ 世界中に友情の  
橋をかけよう

MANKIND IS ONE - Build Bridges of Friendship  
Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田

出席報告：会員70名 出席55名 出席率78.57% 前回出席率85.71% 修正出席64名 確定出席率91.43%

## 国際ロータリー第253地区

### 石黒慶之助ガバナー公式訪問挨拶



私の公式訪問は、本日で73回目となりました。私にとって最も難しい、やりにくいホームクラブの訪問であります。この土地に生を受け、この土地で育ち、この土地で生計を立てており、さらにこの土地に骨を埋めたいと思っております。

皆様の絶大なご支援を受けてガバナーになった私であり、70才まで皆様と多くの触れ合いを得ておりますが、本日の公式訪問は生涯唯一回の恐怖の時のように思います。しかし私には、また来ることのない偉大な光栄の日のようにも思います。私は年次大会におけるガバナーとしての任務よりも、本日の公式訪問の任務の方がはるかに重大な任務のように思われてなりません。本日の訪問は愚直ではありますが、誠意をもって私のロータリー観を申し上げてみたいと思っております。

当クラブは小花盛雄初代会長より24代中江亮会長に至る歴代会長が、赫々たる業績を積み重ねて来た地区内でも名門クラブの一つであります。満足は出来ません。私は今までどこのクラブを訪ねても、特長を見いださずほめて参りましたが、しかし本日はほめることをやめ、激励の言葉に代えてみたいと思っております。何卒寛容の精神を以てお許しをお願いします。

スピーチを前に、当クラブがスポンサーになっているローターアクト、インターアクトの会長さんがお見えになっておりますので、ポケットマネーを贈り、日頃青少年の中心になって活動されておられることに敬意を表したいと思います。

公式訪問の目的は、まず当クラブの実情を向笠会長に申告する義務があるということです。2番目にはクラブの活動計画に助言出来ることがあれば何かご支援申し上げる。3番目には、今年度の向笠会長のテーマにつきましてよりよいご理解をいただきたいということでスピーチ致します。

まず、向笠会長の方針について若干ふれてみたいと思います。テーマについてはすでに皆様よくご了解されているので、あえて申し上げません。しかし先生がエレクトにご指名を受けた時のお言葉は、3年前のことですが、非常に驚かれました。きわめて平凡なロータリアンにこのような異常な機会を与えてくれたのは残酷だというくらいの気持ちを持っておられました。しかし先生は、ロータリーでは頼まれればノウといわない慣例に従いまして、一週間後にはこれを「お受けする」とはっきりした決心を持っておられました。我々ロータリアンの任務はこの一語につきると感じております。先生の友情は我々の想像以上に深いものがあります。ロータリーの基礎は友情であるということから、先生の友情が世界に行きわたるようにこのようなテーマが出ていると思います。皮膚の色・言語・宗教の相違を乗り越えて、友情や善意は世界中に広がるべきものであり、



庄内空港の建設を推進しましょう

ロータリーには国境がないという信念を持っておられます。今年度私達日本人としてお二人目の会長をお送りしている関係から、日本のロータリーは何んとか向笠会長の労に報いるために、前から申し上げたとおり、会員の増強と財団へのご協力をお願いする次第です。

次に皆さんは何んのためにロータリーに入っているのか。私なりに色々考えました。ロータリーは大変高い会費を払い、しかも職業の第一線に立って多忙な時間を毎週一回割愛されて、この例会に出席されます。当クラブの出席率もあまり高くはないが、優秀な成績を継続しておられます。このように算盤をおきましては、ロータリーは皆さんの直接の利潤には結びつきません。過去を振り返ってみますとわかりますが、当クラブではすばらしい奉仕活動を長年続けて参りました。皆さんは奉仕の機会を求めておられるわけです。このようなクラブはどこにあるのでしょうか。ロータリー以外にこのような会合は見当りません。それではなぜロータリーを愛し、信奉し、かつ奉仕の機会を求めているのか？ 私なりには不思議な団体であると思います。ロータリアンは一体何を求めるのだろうか。結論から申し上げます。私は人間形成をめざしているものと考えております。ロータリーに求めるのでなく、ロータリーに何か貢献出来ないか、ということで皆様はこのクラブに入っておられると思います。一般テレビで見たのですが、ある篤農家は先祖伝来の土地を非常に大事にしており、その土地からの農産物で生計を立てているわけですが、その篤農家は毎日その土地に貢献しようと土地作りをしており、土地の改良やら肥料をやったりして大切にしております。「土地から取ると思ふな！土地に与えよ、与えよ」ということが篤農家のお話しでした。私どももロータリーから取るのではなく、何か与えねばならないという気持ちになっている間に、自分の人生が豊かになっているのではないかと感じております。利己心というものは我々が人間として存在する限り、なくてはならないものです。たとえば赤ちゃんは乳をたくさん取らないと成長しません。幼少の頃は父母に多くのおねだりをいたします。しかし長ずるに従って利己心だけではやっていけないということを自から経験します。友人とは仲よく、人には親切にしなければならないという気持ちが出てくるでしょう。ロータリーの奉仕の哲学は、一に利己心と利他心との調和を考えることであろうと感じております。終局の目標は人間

関係の改善にある。簡単に申し上げれば、ロータリーは「人造りのためにある」クラブであると考えますと、ロータリーに対する考え方がおわかりになると思います。しかしその根底は、いつも奉仕の理想であるということに尽きると思います。日本のロータリーが世界のロータリーと若干違うところがあります。1905年にポール・ハリスがきわめて平凡な鋳山技師や仕立屋さんなど4~5人の人達で、真の友情に生きるお付き合いをしたいということからも人間は孤独には耐えきれなく、そのためにロータリーが生まれました。その当時は2週間に1回の会合で会費もなく、各会員のところを廻っていたという素朴な会合でした。しかし1905年6月の第2水曜日から例会場が決まり、シャーマンハウスというホテルで開くようになったわけです。最初の定款は幼稚なもので、会員の職業上の利益を図ることが第1です。第2は親交と社交のクラブということで専ら友情を深めるということがポール・ハリスの考えのようです。これに附帯して色々望ましい環境づくりが次第に整ってきます。最後に、3番目としてシカゴの最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りを持つようと云われております。このように単純な会合でした。しかしこれも回を重ねるたびに変化がおこって来ます。この最初に集まった平凡な市民の無名の方々が、10年後にはシカゴの地域社会でリーダーシップを取るような、すばらしいロータリアンになっております。ところで、このようにして生れたロータリーですが、日本では1920年(大正9年)に東京R.C.が創立されました。この時は米山梅吉さん福島喜三次さんが会長、幹事になられたのですが、東京R.C.の入会の条件としまして、まず第1に英語に堪能でないと入会できず、東京が広いと云えども該当する人は多くありません。日本のロータリーの創立はエリートの中から出てきました。従ってロータリーは特権階級や資産階級の昼食会という非難を受けていたようです。ポール・ハリスの作ったロータリーと日に生れたロータリーとは、その出発点においてやや違っていたということを発見したわけでございます。私はシカゴに行き、ポール・ハリスのお墓を見ました。平凡な市民の墓と何ら異なるところがない小さな墓でございます。日本なら日比谷公園に立派な胸像でも立っていると思います。ポール・ハリスはこうしたことは大嫌いです。表彰されることや顕彰されることも嫌いです。ただ、すばらしい方針の実践家だと思えます。このようにシカ

ゴで生れたロータリーと、日本で生れたロータリーとは、若干の食い違っているということを感じました。私も雑草の中から生まれ、美しい花を咲かせるのがロータリーではないかと感じております。日本のロータリーは大正9年に出来てから、大東亜戦争の最中の昭和15年まで出来たクラブが3地区48クラブ、会員2,142名で、この数字が戦前のロータリークラブの実態でした。現在の253地区の会員から見ますと、はるかに劣っております。当時日本のすべてのクラブは満洲・朝鮮も入っており、3地区に分れ、事変の始まる頃70地区が東日本、71地区が西日本、72地区が満洲・朝鮮となっております。当時日本のロータリーは米山先生始め、現在のR.I.B.I.のイギリスの形態のように、地域社会に連合体を作りたいという気持ちでございました。これを作ると、R.I.の負担金が半分で済み、あとの半分は地域に残し、日本の東洋的クラブを作ろうという考えであっ



たようです。しかし、1937年(昭和12年)日華事変が始まります。この地区で一番古い郡山R.C.は昭和10年にすでに出来ていました。事変後日本が次第に帝国主義国家に変わりつつある昭和15年。横浜で3地区連合の会合が始めて行なわれました。その年は紀元2600年の年です。この頃からR.C.の会合に警察の特高や憲兵が立ち合うようになったのです。そして数ヶ月後には「ロータリーの組織機構は日本帝国に対する反逆である」という格印を押され、解散を命ぜられたのです。日本でロータリーが創立されて20年目で自決せざるを得なくなり、非常に苦しみながら国家目標のためR.I.との関係を断たれてしまいました。そしてロータリーは復帰するまで9年間地下活動に移ったのです。これは絶対主義国家にはロータリーは育たないという実例を示したものです。地下にどうして潜ったのかという状況を申し上げますと、東京R.C.は東京水曜クラブに、郡山R.C.は郡山金曜クラブに、札幌R.C.は札幌職能会に、横浜

R.C.は横浜職業同人会に変えて、ロータリーという名前は完全に消し、地下に潜って奉仕の理想を飽くまで死守しようとなりました。終戦当時まで残ったクラブは18あり、会員はわずかに1,050名でした。激戦の中でロータリー精神を受け継いだ会員がいたということです。これはすばらしい尊敬すべきことだと存じます。この地区におきましても、郡山R.C.に現存している会員がおられます。遠藤安一郎さん(91才位)ですが、この方は戦前のロータリーを知っておられます。私も任期中当時の思い出話をお聞きしたいと思っております。

終戦後3ケ年の間、R.I.では復帰をなかなか承認してくれません。たまたまR.I.からミーンズさんが来日される機会がありまして、まず東京R.C.の復活をお願いしたわけです。日本ではR.I.復帰同盟を結成し、盛んに活動したのですが、どうしても3年間は認められなかった。その間、マニラ、香港、シンガポールなどが入っており、グアムが一番早かったようです。3年後でなければ入会出来ませんでした。その時の条件は、まず現在の各曜会を全部解散することです。第2はR.I.の定款細則を守ること。第3はR.I.への義務を果たすこと。この3つが復帰の条件でした。日本では今イギリスにあるようなR.I.B.I.という機構は絶対作れないというが、ここに出ているわけでありまして。このように先輩が苦勞したロータリーですが、その後大変な勢いで現在まで発展しているのです。日本はアメリカに次ぐロータリー国家だと云っても過言でないと思います。財団でも会員数におきましても非常に発展しております。

先般ダラスの会議におきまして、韓国のガバナーが私に対しまして「日本はロータリーで世界制覇をやるのでないか」と皮肉を云いました。まだまだ誤解が解けないところがございまして。昨年ソウルにおける日韓親善会議におきまして、日本は一方的に韓国の非難の声に屈しました。諸々のうらみつらみを多く持っており、豊臣秀吉の朝鮮征伐から日韓合併まですべて被害を受けたのは朝鮮の人々です。それに対しうっぷんやる方ないという気持ちで、教科書問題まで起きています。今度の中曽根首相の韓国訪問で大分やわらいだのではないかと感じております。来る4月下旬に3日間にわたって神戸のポートピアで、日韓親善会議を再び行う予定です。これには向笠会長自ら陣頭に立って行うことになっており、私も喜んでこれに出席してみたいと思っております。

日本のロータリーは、このようにして苦難の道を通りましたが、すばらしい発展をとげて参りました。これは一言でいいますと、ロータリーの精神が、自由社会の日本に非常に合っていたといえます。しかも日本人の考え方が進取の気性に富んでいるということが、すばらしい成果をあげていると思います。

R.I.の精神、やっつけやろうという精神。これがロータリーの発展につながるもっともすばらしい要件でないかと思えます。

大変長い間、時間をおかりしましてありがとうございました。

## 石黒ガバナー公式訪問による 第4回クラブ協議会開催さる

1月18日(火)の例会終了後、引き続き14時から鶴岡産業会館第2会議室において、石黒慶之助ガバナー公式訪問による第4回クラブ協議会が開催された。

庄内分区代理・土門敏雄氏同席の下に、中江クラブ会長の挨拶に引き続き、石黒ガバナーより歯に衣を着せず、卒直に話し合いを致しましょうとの御注意があり、17時までの3時間に及ぶ協議会は、終始穏やかに熱心な協議が行なわれた。

特に各委員会の委員代表から報告される活動報告に対して、石黒ガバナー及び土門敏雄分区代理は、丁寧聞いて頂き、活動報告に対する問題点の御指摘或は御指導は、お二人の豊富な知識と経験がにじみ出てくるような素晴らしいお話であり、3時間の時が1時間位に感じられる程、その内容は充実したものであった。

お話の中で、感銘を受けた主なるものを、次の如く抜き書きさせていただきます。

1. クラブの良し悪しは、歴史が古いとか、会議が多いとか少ないでは決めることができない。

ロータリアンとして如何に熱心な人が多いか少ないかにより、計ることができる。

熱心なロータリアンとは、

- (1) 組織力、指導力に秀れている。
- (2) 会員の心の充実が必要。
- (3) I will・所謂・やろうという精神がある。即ちLeaderとして知識・野望・指導力を兼ねそなえた人が多くいるクラブが最も良いクラブではないだろうか。

(石黒ガバナー御挨拶より)

2. 友情とは、微笑と握手である。

3. 鶴岡ロータリークラブの会員のお話は、お互いに相手を尊敬し合っている心が、その言葉使いで感じられる。

4. ロータリアンの敬語の使い方として、お互いの呼び方を「君」又は「さん」で呼び合うところが多い。しかし「さん」で呼ぶのが最も良いのではないか。

5. ロータリアンの増員については、先祖にさかのぼって調査するところもあると聞かすが、個人が主である。良い人がいれば選考し増員しましょう。

6. ロータリアンの中の企業で従業員の4.5%に及ぶ身体障害者を採用している会社がある。身体障害者をできるだけ採用するようお願いいたします。

7. ロータリアンとして、ためになる雑誌の紹介
- (1) 世界をかけめぐる事業家
  - (2) 日本60年史 (@ 3,500 円)
  - (3) ロータリー・ベーシック・ダイヤリー

8. 交換学生の選考については生命に関係のない身体障害者ならば推選OK。学校の成績にこだわらないようにしましょう。ロータリアンの子弟には機会を掴ませるよう配慮する。

ホストの少ないのは、当クラブの欠点である。(石井敬三君、三井賢二君がまとめたアンケート集計は参考となる)

9. 社会奉仕の考え方  
社会奉仕に関するロータリーの任務は、どこまでと範囲を決めるのはむずかしい。考え方としては、昔のポンプに呼び水を入れてポンプを稼働させた、あの呼び水の役目をするもの



と考えてもらいたい。

その活用如何で呼び水の効果が大きく変わるから、うまく活用するよう研究が必要。

10. リスクへの挑戦経験という意味を兼ね、マイクの前に立ったことのない会員にも3分スピーチでよいからマイクの前に立つ機会を作ようにしましょう。

## 会長報告

中江亮君

- 253 地区石黒ガバナーを迎えて鶴岡R.C.公式訪問の行事が行なわれます。本来ならばクラブ協議会を先に開き、翌日クラブ例会に公式訪問くださるのが慣例となっております。今回は石黒ガバナーのご方針にしがたい、先にクラブ例会に出席され午後クラブ協議会に出席されることになりました。午前中は会長・幹事と次期会長・幹事が呼ばれ、懇切なご指導を受けました。
- 今日の例会において石黒ガバナーは、当クラブのために特にすばらしい情報を提供して下さるといってお話でしたから、ぜひ情報研修の場としてこの機会を有意義に活用していただきたい。
- 例会終了後クラブ協議会を開きますので、各委員会の活発なご意見をいただきたい。特に新しい会員の方々は何でも結構ですから発言をいただきたいと思えます。
- 去る1月11日の臨時理事会で、鶴岡ローターアクトクラブ総立10周年記念式典のための補助金として16万円を支出することを承認しました。なお、石黒ガバナーから公式訪問に当り、多額のスマイルを頂戴致しました。お礼申し上げます。

## 幹事報告

佐藤元伸君

1. 会報到着 米沢R.C. 米沢西R.C. 鶴岡西R.C.
2. 例会変更のお知らせ

当クラブの2月1日の例会の時間変更

1. 日時 2月1日(火) P.M. 5:30
2. 場所 例会場(たら汁会)
3. 登録料 1,500円

当日会場でオークションを行ないます。ご協力下さい。

3. 新会員の推薦に関する氏名発表  
斎藤政治 (水沢化学工業(株)水沢工場長)  
化学工業  
手塚 拓 (山形日産自動車販売(株)常務取締役)  
自動車小売

## ロータリー財団委員会

佐藤 衛君

今日石黒ガバナーを迎え新穂光一郎さん、小松広穂さんのお二人からポール・ハリス準フェローとな

## ガバナーを囲む懇親会

ガバナー公式訪問を記念し、17時30分から、昭和町の住よしにて、ガバナーを囲む懇親会を開催した。石黒ガバナーを囲んで土門分区代理の乾杯により、総勢40人が出席し、和気相合いの楽しいひとときを過ごすことができました。

るためのご寄付を戴いております。お二人のご奉仕に盛大な拍手をお願いします。今会計年度のポールハリス準フェローになれる方は10名になりました。

## 青少年交換委員会

石井敬三君

交換学生の受け入れについて、ホストファミリーの選定で悩みもあり、その問題点はどこにあるのか探ってみることにして、経験者15名の方々にアンケートをお願いし、12名の方々から回答をいただきました。出す前は否定的な回答になるかと心配したが集計してみると大変前向きなものが出来て幸いでした。アンケートを集計して感じることは、受け入れる気があれば言葉や生活習慣の違いなどあまり障害にならないことを教えてくれました。家庭の事情が許すならぜひご協力をお願いします。詳細は『交換学生ホストファミリー意識調査アンケート集計』をご覧ください。

## 退会あいさつ

吉田昭利君



転勤で鶴岡を去ることになりました。1年7ヶ月という短い期間でしたが、友情とご交誼をいただきありがとうございます。これからもロータリーの理想をいかし、鶴岡の良さをいつまでも忘れず、皆んなに伝えていくつもりです。会員の皆様のご健勝を祈ります。

## ビジター

庄内分区代理 土門敏雄君  
鶴岡西R.C. 佐藤 等君

## ゲスト

R.A.C.会長 清和由雅君  
鶴岡高専I.C. 奥山仁志君・栗田晃一君  
鶴岡工高I.C. 桜井峰夫君・今井 裕君  
佐藤文勇君

## 職 場 紹 介



名 称 荘内銀行

代表者 頭取 玉城 俊一

私共の荘内銀行は、創業は古く明治11年にさかのぼり、爾来、鶴岡に本店を置く地元銀行として皆様にお引立を頂いて参りました。

有難く厚くお礼申し上げます。

近時、店舗網も充実し、又店舗外CD（現金自動支払機）も設置され、益々広くご利用頂けるようになりました。

鶴岡市街地域の当行営業拠点は、

（地図をご参照下さい）

- |           |             |
|-----------|-------------|
| (1) 本店営業部 | (4) 鶴岡西支店   |
| (2) 北支店   | (5) 鶴岡東支店   |
| (3) 鶴岡南支店 | (6) 本町三丁目支店 |

それに、(7) 鶴岡市役所出張所がございます。

更に今年7月21日には国道7号線に、(8) 新斉町支店がオープン致します。

店舗外CDとしては、(9) 庄交モールCDコーナー (10) 荘内病院CDコーナーがございますのでご活用下さい。

店舗網は山形県内に本店以下49ヶ所があり、県外は仙台に2ヶ店、東京・新潟・秋田・福島に各1店となっており、合せて55ヶ所であります。

店舗外CDの数も18ヶ所になっております。

外国為替のお取扱いも、本店営業部と東京支店で致しており、外貨の両替は、本店と東京の他酒田中央・新庄・山形・米沢・仙台・新潟・福島の各店でも行っております。

当行の従業員数は、昨年末現在で1,021名。（男687名・女334名）ですが、上記の鶴岡市街地域店

舗に勤務する人員は273名（男169名・女104名）であります。

当行は次の4ヶ条の経営方針を掲げております。

- 知識を広く求め、変化に適應して行く。
- 親しまれ真に役立つ銀行になる。
- 意欲的な計画を樹て、それに挑戦して行く。
- 明るい気力に満ちた職場を作る。

私共役職員は、この経営方針を体して、地元の皆皆様のお役に立つ銀行になるよう努力しておりますので、一層のお引立て、ご支援を心からお願い申し上げます。



名 称 鶴岡アパレル株式会社

所在地 鶴岡市大字道形字宝田 77-1

電 話 0235-24-1140

代表者 社長 石塚 敏彦  
常務 石塚 義一

資本金 1,000万円

生産品目 紳士用高級スラックス

生産数 月産 20,000本

従業員数 130名

最近の客先の要望は、求める製品に対して多様性に富み、しかも低コストで高級品を求められるケースが多いようです。

当社は、できるだけこれらの要望に対応できるよう、常に生産する製品に適した作業方法の改善に努め、次の4点の遂行することをモットーとして、常に励んでいます。

- 即ち
1. 客先の要望するスラックスを
  2. 客先の希望する日に
  3. 客先の希望する数を
  4. 客先の希望する所に

ジャスト イン タイムに納入する。

（今週の担当者 今野 清一）